

Susono City



令和4年度

5月号

5月9日発行

# “学びの森”だより

## 個別最適化 そして 共有へ

爽やかな風薫る中、各学校を訪問させていただきました。新年度が始まり、学校は、教育課程に沿って、一步一步、歩み始めていることを実感しました。

さて、中央教育審議会の『「令和の日本型学校教育」を担う新たな教師の学びの姿の実現に向けて』では、今までの一斉・画一的、一方向的な研修が教員の資質向上に貢献したかどうか疑わしいというのです。教員の実践に即した「一人一人のニーズ」にマッチした研修がより効果的であるというのです。そして、それは具体的な取り組みの場があればこそです。顧みて、学びの森は開設当初より、このことをコンセプトに、一人一人に寄り添って授業研修をしてまいりました。

各学校の課題は、それぞれ違い、目指す研修テーマ、手立ても違ってきます。さらに、校種の違い、研修主任の経験年数も違い、研修主任の悩みもそれぞれです。そこで、裾野市研修主任研修会の在り方も下記のように変更してみました。

- ①裾野市の研修主任全員が集まる研修会は開かない
- ②各学校ごとに裾野市の研修担当指導主事、学びの森指導員が訪問し、個別に対応する。
- ③年3回の研修機会を設ける
  - 1回目・・・各学校の課題、悩み、テーマ、手立てなどについて共有する
  - 2回目・・・各学校の授業を通して研修する
  - 3回目・・・振り返り

それぞれの学校で個々のニーズに沿って、具体的授業を通して個別に考えていきたいと思っています。また、話し合ったことを共有する方法についても考えていきたいです。どうぞご理解とご協力をお願いいたします。

## 長野 善光寺 幸せとは

新緑がまぶしい季節となり、学校では、修学旅行が始まっています。新型コロナウイルスの対策をしっかり立て、どの学校も無事に実施できることを祈ります。そんな中、ある学校で修学旅行の行き先が、長野県の善光寺ということを知りました。今年は7年に一度、絶対秘仏の前にある前立本尊の御開帳の年で、ご利益を授かろうと全国からたくさんの方がお参りになります。



このお寺の歴史は古く、仏教が伝わって間もないころ、ある仏像が、大阪の堀（川）に投げ落とされました。それを見かねた一人の男性が、かわいそうだと思い、堀から拾い上げ、そっと長野県まで落ち延びました。そしてお堂を建立し供養しました。この男性の名前は善光（よしみつ）さんです。したがって、このお寺は、よしみつ寺と呼ばれるようになりました。しかし、お寺は、音読みする習わしがあり、いつのころからか、善光（ぜんこう）寺となったそうです。

さて、善光寺の話を聞いて、思い出すことがあります。それは、善光寺のご法主猊下が、静岡県にお越しになられた時のことです。まだ若かった私は、お世話係を仰せつかることになりました。その時のことです。

食事の時や休憩のたびに、善光寺でのこと、趣味の話、旅行の話、好きな食べ物など、楽しいお話をたくさんさせていただきました。ご法主は善光寺上人（現在は鷹司家のご出身です。）と呼ばれ、尼僧です。代々、近衛家・一条家・九条家・鷹司家・二条家の5摂関家（摂政関白に任じられる家、皇太子に嫁ぐ家）から、幼い女の子が見初められ、善光寺で教育を受け修行し、一生を善光寺に捧げるのです。信じられないことだと思い、つい「大変ですよ。」と同情するように言ってしまいました。すると、「お気遣いありがとうございます。でも、そんなことはありませんよ、昨日は、熱海の町、そして海を歩きました。とてもきれいで、気持ちが良かったですよ。そうそう、夜はお酒も飲みました。」と、とってもとっても嬉しそうに話してくれました。本当にそう思っているのか確かめたくなった、ばかな私は、「でも、自由が少なく大変ですよ。」と尋ねてしまったのです。すると、「あなたは、私が『かわいそうだ』と思って、そうおっしゃってくださっているんですよ。」と切り返してきました。どきっとしました。「そんなことはありませんよ。私は、みなさんのために、何かができることが、とっても幸せなんです。でも、あなたは、人と比べて自由がない、大変だと感じたのですよね。ご自分の尺度で比べたからですよ。でも、私は私がどう感じるかが大切だと思っています。幸せは人と比べるものではないと思います。今ある、ささやかな幸せに気付くことだと思っています。私は、みなさんの笑顔がみられることに、とっても幸せを感じるのです。幸せは感じるもの、気づくものだと思いますよ。」何も答えられませんでした。しばらく黙ってしまった私を見て「今日あなたと楽しくお話ができて、私はとっても幸せですよ。ありがとうございます。」と、にっこり微笑んでくれたのです。ご自身のお立場をしっかりと受け止めていました。私は、覚悟とは、かくあるものなのかと感じ、愕然としました。もう、何年も前のことですが、このことは一生忘れられません。そして、歳を積み重ねた今、全くその通りだと感じます。相田みつをさんの「しあわせは いつも自分のところが決める。」まさにこのことだと思いました。

令和の日本型学校教育の一つに「個別最適化」があります。いつの時代においても、幸せとは人と比べるものではなく、自分がどう感じるかでした。昨年、「比べたところから不幸が始まる」と揮毫し、学びの森の入り口に、自分への戒めとして掲げました。

（文責 松山充彦指導員）



編集・発行：“学びの森”

〒410-1102 裾野市深良 435 番地

TEL：055-995-4903

FAX：055-995-4904

<http://www10.schoolweb.ne.jp/weblog/data/2240002>